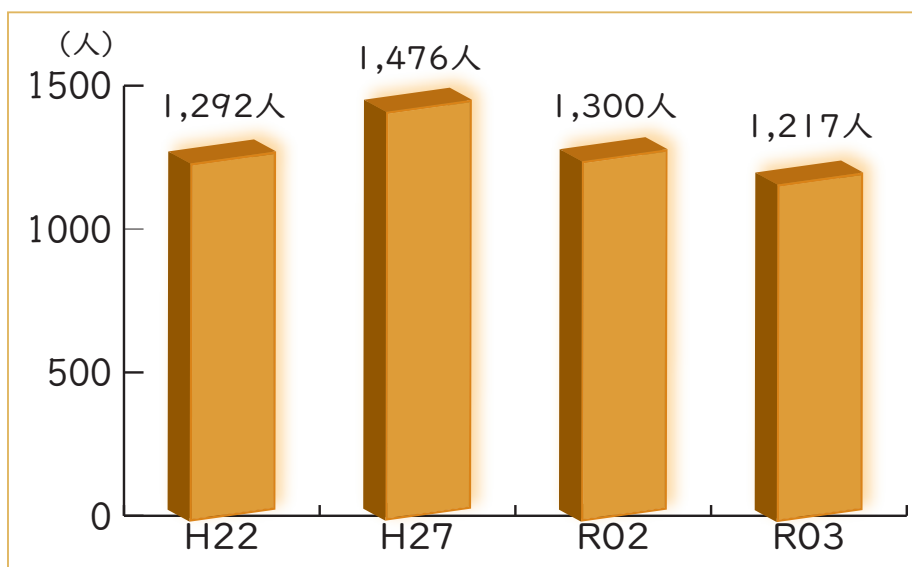


「にほんまつ」って

実は**良い**ところ!?



【各年の二本松市への転入者数】資料)福島県現住人口調査年報

「二本松には何も無い」
「二本松から出ていく人ばかり…」
「〇〇市にはアレがあるのに…」
ネガティブな発想になりがちな二本松。
でも、二本松市には、毎年、1000人以上の人が転入しています。
10年で1万人。
想像していたよりも多いでしょうか？



二本松市総合計画(令和2年12月策定)を策定するためのアンケートでは、「日常生活の満足度」を市民の皆さんに聞きました。結果は、左表のとおりですが、実は、特に転入して20年以上が経過した方の満足度が高いことが特徴のひとつです。今月号では、移住者の多い東和地域や、転入して数年、数十年経った皆さんに「にほんまつ」での住み心地を聞いてみました。

二本松に住んでどのくらい？	とても満足、やや満足	あまり満足ではない、満足ではない	どちらでもない
生まれた時から	54%	22%	24%
二本松にUターン	56%	24%	20%
転入して20年以上	65%	20%	15%
転入して10～20年	54%	23%	23%
転入して10年未満	55%	32%	13%

【日常生活に満足していますか？】

資料)二本松市総合計画策定のためのアンケート調査



わたなべ りょうま
渡邊 龍馬 さん

地域おこし協力隊

会津若松市出身。以前は関東で電気回路の設計・開発の仕事に携わる。偶然、仕事で福島に戻る機会があり、自然が近い場所での暮らしに触れ、改めて暮らし方を見直そうとしていた時に「地域おこし協力隊」の存在を知る。数多くの自治体の中から、有機栽培農家や移住して就農している農家が多く、人とのつながりを大切に、自然と共存できる生活が送れそうな感じがして、東和地域を選んだ。

趣味はパンづくり。

龍馬さんは、東和観光協会に配属。着任したころ、「こんなところ何もないよ(笑)」と何気なく言われたことに不安を覚えたことも。生活をしていくにつれ、また、多くの人と出会って行くにつれ、この東和地域に住んでいる多くの人にとって日常の一部になっていくものが、ここしかない素晴らしい価値のあるものを感じられました。

**地域おこし協力隊として
夫妻で二本松へ**

お二人は、ともに現役の地域おこし協力隊員。令和2年に二本松市東和地域に着任しました。



高林寺のあじさい

その素晴らしい価値のあるものとは、この東和地域にある「里山の景色」や「地域住民同士の地縁をベースとしたつながり」のこと。
地域おこし協力隊員としては、観光資源の開発やPRが主な役割です。コツコツと 구글マップに東和の写真を追加していくなど、SNSで情報を発信しています。特に印象深かったものは、「高林寺のあじさい」や「木幡山の夏詣」とのこと。



農家民宿を営む皆さんと

また、農家民宿を中心として、観光用の電動アシスト自転車レンタルサイクルを始めました。東和ロードレースの「地獄坂」に代表されるように坂の多い東和地域では好評です。

史子さんは、東和地域の澄んだ空気、湧水の美味しさ、山々や星空の美しさを素晴らしいと感じています。地域の方々も親切で、困ったことがあると助けてもらったり、人とのつながりが強かったりとお金では買えない価値をたくさん感じています。
地域おこし協力隊員としては、農業体験やアクティビティを通じた地域との交流、里山の魅力を伝えるためのツアーを作ったりしています。また、東和の良さを詰め込



まるっととうわ

んだホームページ「まるっととうわ」やSNSで情報発信もしています。

東和地域での生活

東和地域にきた頃から借りている畑は、およそ7アールここに来る前は、マンションでの生活。野菜は、ベランダに置いたプランターでちよこつと育てたことがあるくらいでした。今では、出荷はしていないものの、キュウリやトマト、ズッキーニなど、20種類くらいの野菜を育てています。二人では食べきれないほど採れ、夏は毎日収穫にその日に採れた野菜が食卓に並びます。



自分たちで育てた野菜



畑で収穫

野菜作りは龍馬さんがメイン。「小さい種から、こんなに大きい実になっていくところがおもしろい。実際は、育てているのが、作物の成長をちよつとサポートしているだけなのかなからないけど。」と話してくれます。

グリーンツーリズム

史子さんは、グリーンツーリズムを広げる活動にも力を入れていきます。
昨年からは親子や子育てグループを対象にした里山体験ツアーを開催。ツアーでは、東和の特産品を紹介したほか、参加者と一緒に、採れたて野菜を使った料理をして、東和の食を味わってもらいました。また、農家民宿の皆さんに協力してもらい、収穫体験を始めとした農作業を体験してもらっています。



道の駅での料理の様子

「自分一人ではできないことばかりで、多くの人に助けてもらいながら、活動しています」と話してくれました。史子さんは、趣味を活かして、お菓子作りも活動のひとつとしてしています。道の駅を借り、料理教室やお菓子作り教室を開催しています。

「来てくれた人たちをどうやって楽しませるか」



わたなべ ふみこ

地域おこし協力隊 **渡邊 史子** さん

岩手県出身。大学時代に運動栄養学を学び、神奈川県で栄養士として勤務。東日本大震災では生まれ育った場所で多くの命が失われ、いつかは東北に帰りたいと思うように。移住セミナーなどにも参加し、福島で風評被害に立ち向かう地元の方の姿に感銘を受ける。温かく迎えてくれる農家民宿の居心地の良さに安心感を抱き、また、東和地域の自然あふれる生活に惹かれ、地域おこし協力隊員として東和地域へ。趣味はジョギング。



好評の「桑プリン」

同じ職場の方と一緒にレシピを考案し、お菓子作り教室でも好評だった「桑プリン」は、評判を呼び、商品化。マルシェ限定で、販売されています。9月に福島空港で開催された「道の駅空の駅まつり」でも、道の駅ふくしま東和のブースで、東和の「桑」や「平飼卵」を使用したこの「桑プリン」を販売しました。マルシェで見かけた時は、ぜひご賞味ください！

将来を見据え、二人は、東和地域にある空き家を借りました。築150年と言われたその家は、空き家になって1年程。空き家になる前に、貸し主の方が、水回りのリフォームをしてくれていたり、大きな家具を持ち出してくれていたりと、助かる部分も多いようですが、それでも、新たな生活を始めるには、手入れが必要とのこと。

空き家をリフォーム（現在進行中）

また、7月に開催した「道の駅ふくしま東和」大創業祭では、ふくしま応援ポケモン「ラッキー」のイベントにも尽力し、当日は多くの子もたちで賑わいました。



大創業祭でふくしま応援ポケモン「ラッキー」と

この日の作業は、ふすまを外したり、古くなりすぎた畳を外に出したり。時には、床が抜けて、地面が丸見えのところもあったり。休日に、少しずつ手入れをして、空き家をリフォームしています。どんな空間になるか今から楽しみとのこと。また、空き家の隣りには、野菜も育てることもできます。



古い畳の運び出し

将来を見据えて

東和地域には、移住して生活をしている人が多く、地域おこし協力隊の先輩でもこの地域で就農している人がいます。

龍馬さんも、地域おこし協力隊の任期終了後は、農業の研修をして、就農したいと考えているそうで、安定した収

量を得るための勉強もしたいと話してくれました。このほかにも、東和地域で活動している「里山再生合同会社」にも参加しています。昨年始動したこの活動では、東日本大震災以降手つかずだった山々を間伐によって再生させ、将来的には、この地の特産であった原木しいたけの再生を目指しています。そこで得た収入が、新規就農者の冬の収入源となることも、この活動の特徴のひとつです。

史子さんは、龍馬さんの農業をサポートしながら、作物のこともっと知り、その上で、料理を楽しみたいとのこと。ケーキを作ったりパンを焼いたりすることが好きで、将来は、自分が作ったものをたくさんの方に味わってほしいと話してくれました。



リフォーム中の家の前で



わたなべ はるか
渡邊 晴香 さん
千葉県出身。7年前に夫の
地元である二本松へ。

最初はビックリ福島県

子どもが小学校に入るタイミングに合わせて、二本松へ。夫の実家の隣りに家を建てました。

千葉県では、都会の千葉市で生活。福島県にきた時、電車のドアが自動で開閉しないことにビックリしました。ほかにも、子どもが通う中学校の校庭の広さなど土地の広大さにも驚きました。

良いところもいろいろ。閉鎖的な部分もあるかもしれませんが、学校の保護者同士とかで、地元のネットワークがあり、お母さん同士の仲が良いと感じています。そのおかげで、子ども同士も仲が良い。二本松の居心地が良いから、結婚してからとか、子どもが出来てから戻ってくるんだと思います。自宅では、家庭菜園で野菜

和菓子屋さんが多い街

二本松には和菓子屋さんが多いことが魅力。城下町だからなのかもしれませんが、その時の気分で、お店や、食べたい和菓子を選べるのがうれしいです。あと、子どもの医療費が18歳まで無料なのもうれしい。

通勤が車なのは、私にとっては良いことです。ちょっとくらい渋滞があっても、満員電車のストレスとは、比べ物になりません。ただ、子どもや車がない人にとっては不便な街に感じられるかもしれません。子どもの習い事も家族の送り迎えが必要だったり…。

「菊松くん」や「ざくざく」、「日本酒」。二本松には、「サファリパーク」だってあります。「エビスサーキット」は外国人が新婚旅行の行き先として訪れています。もっとPRすれば良いかもしれませんね。娯楽は少ないけど、住みやすい街だと思います。



ささき しんゆう
佐々木 伸裕 さん
秋田県出身。郡山市で学生時代を過ごし、二本松へ。

ちょうど良い街感

インターチェンジも近いし、福島も郡山もアクセスしやすく便利だと思います。秋田の頃は県庁所在地の秋田市まで遠くて…。

田んぼとかの細い道を見ると、秋田の実家と二本松が似ているなあと思ったりすることもあります。職場では県外出身の人も多く、言葉にも特に困らず、結構、すんなりと二本松に入っていったと思います。

二本松は、サイズも良く、都会過ぎず、田舎過ぎず、ちょうど良い街感です。住むにはちょうど良いと思います。最近出掛けるとすれば、子どもの行きたいところが中心になっていきますね。二本松しんきん城山プールに行ったり、今年できた「万sai堂」に行ったり。

週末は、地域の子ども達と一緒にソフトボールを楽しんでいます。最初に小学3年生で始めた息子は、もう高校2年生。今は、小学6年生の娘と一緒に、試合に行ったり、キャッチボールをしたりして楽しんでいきます。

「桜」「和菓子」「提灯祭り」

作業療法士という仕事柄、日中、市内を車で移動することが多いですが、二本松は景色が良いところも多いと思います。特に桜の季節には、お城山を中心とした郭内地区や茶園、円東寺の桜などが素晴らしいと思います。

二本松は、和菓子がおいしいですね。あと、提灯祭りはすごいですね。祭りへの情熱が本場に熱い。いつも、楽しませてもらっています。



娘の優衣さんと

二本松の定住支援員

二本松・安達・岩代・東和の各地域に1人ずつ配置され、二本松市への移住・定住のお手伝いをしています。

「どこに相談すればいいのだろう?」という、ふと思うようなことを担当へ橋渡ししています。さしずめ、「にはほんまつ暮らしの案内人」といったところでしょうか。

具体的には、移住を希望する方の相談対応、住まいを探しの方への空き家バンクの案内、また、二本松で暮らし始めた方のための交流イベントを開催しています。

今年は、二本松市で暮らしはじめた皆さんと「にはほんまつハジメテ会」を開催。参加された皆さん同士がおしゃべりしながら暮らしの情報をお互いあつたりして新たな関係を築いていただきました。

皆さんにとって幸せな「にはほんまつ暮らし」が送れますように!



にはほんまつハジメテ会の様子

油井地区



あさだ みつひこ 浅田三彦さん 愛知県出身。16年前に職場のある二本松へ。

みんなに教えてもらって

学生時代を郡山市で過ごし、福島県の会社に就職。子どもが小学校に入る少し前に、勤務先となった二本松に家を建てました。

自分が育ったところは、いわゆるベッドタウンで、消防活動もなく、隣組でのお葬式も経験したことがありませんでした。妻も宮城県出身で、二本松の風習や生活習慣に戸惑ったこともありましたが、今でも分からないことがいっぱいあります。でも、いろいろな人に教えてもらっています。周りには、聞くことのできる人がたくさんいます。

特に消防団では、始めは、よく分からない状態ではありましたが、「声を掛けてもらえるならやってみよう」と思って、いざ入ってみると

2つの選択肢がある

そこには、いろいろな職業の人がいました。自分の知らないことや、異業種の人たちの話を聞くことができました。11年間お世話になり、人生が変わったような感じがします。二本松は、人のつながりとても大切にしている気がします。

二本松は、福島にも郡山にも行くことができ、アクセスが良い場所だと思います。どちらにも新幹線の駅があります。病院だって、二本松のほかにも福島にも郡山にも大きな病院があってどちらにも行くことができます。

2つの選択肢があることが良いと思っています。私は、本に携わる仕事をしていることもあって、図書館に行く機会が多いのですが、図書館がより使いやすく、もっと、みんなが集まるコミュニティの場になってくれたら良いなと思っています。



二本松図書館

二本松地区



かまたしゅういち 鹿又修一さん 宮城県出身。33年前に妻の地元である二本松へ。

最初は戸惑いも

職場が郡山市になり、妻の実家の近くに家を建てました。場所は二本松地区の「松岡」となっています。まとまりすぎて、最初は、右も左も分からず、お祭りの話をされても分からない部分も多くて、戸惑いもありました。

若連も消防も、やってみないのは「もったいない」

少し時間が経った頃、若連に混ぜてもらいました。そして、消防団にも。最初は、その輪に入りづらいと思った時期もありました。私みたいな外から来た人間が入って良いのか、とも思いましたが、いざ入ってみると、いろいろな職業の人がいて、地域とのつながりが強いと感じました。結局、消防団には22年間お世話になりました。

若連も消防も、やってみないのは「もったいない」と思いますが、こんなに多くの人とのつながりができるのに。松岡地区では、地区の皆さんが、いろんな役を、しかも兼務しながらやっています。一生懸命に地域のことを頑張っています。これは、本当にすごいことで、私もまだまだ見習うところが多いです。二本松は、気候も良く、街から近いところに温泉もあります。

商店街がさみしくなったり、出産できる場所がなくなったりと、将来に不安を感じる部分もあります。二本松は、気候も良く、街から近いところに温泉もあります。

福島にも郡山にも気軽に行くことができます。街自体がざわわっていることもなく、不便も感じていませんし、良いところだと思います。龍泉寺近くの菜の花がきれいで、その景色が好きです。



龍泉寺近くの菜の花(二伊滝)

編集後記

市の広報担当4年目になる筆者は、奈良県で育ち、学生時代は福島市で生活。二本松に住んで21年になります。生活している大平地区は、田んぼや里山が広がる場所。地区で夏祭りをしたり、運動会をしたり。

自分の周りを見てみると、実は多い転入者。アンケートでは、転入者の方が満足度が高いという結果がありました。満足しているのは、「どんなところ」なのか。転入してきた方たちに直接聞いてみようと思いついたのが今月の特集企画です。

皆さんの言うとおり、二本松は、全てがさう街ではありません。しかし、少し行動範囲を広げると、何でもできる立地。そして、人とのつながり。二本松は、そんな、ちょっと良い街なんだらうと改めて感じました。



安達ヶ原ふるさと村